

平成 20 年仙台市の人口動向

人口の動向は、自然動態（出生及び死亡の動き）及び社会動態（転入及び転出の動き）によって説明されます。この特集は、平成 20 年 1 年間の仙台市の人口動向について、社会動態を中心に報告するものです。

利用上の注意

- ・本報告書で用いた地域区分は次のとおりです。

仙台都市圏内の他市町村：塩竈市、名取市、多賀城市、岩沼市、亘理町、山元町、松島町、七ヶ浜町、利府町、大和町、大郷町、富谷町、大衡村

北海道地方：北海道

東北地方：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

東北 5 県は、東北地方から宮城県を除いた地域

関東地方：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

東京圏：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

中部地方：新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県

近畿地方：三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中国地方：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

四国地方：徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州地方：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

※なお、本文中にある「その他の地方」は、特にことわりのない場合、上記のうち東北地方と東京圏を除いた地域をいいます。

用語の説明

- ・登録人口 = 住民基本台帳人口 + 外国人登録人口
- ・人口増加数 = 自然増加数 + 社会増加数
- ・自然増加数 = 出生数 - 死亡数
- ・社会増加数 = 転入数 - 転出数 + その他の増加数（職権記載・消除、国籍取得・喪失、転出取消等）

解 説

I 登録人口による人口動向

1 概 要

平成20年末の登録人口は102万376人でした。

また、平成20年1年間の人口増加数は2409人となり、平成19年の人口増加数1356人に比べ1053人増加となっています。その内訳は、自然増加数が2727人（対前年129人の減少）、社会増加数が△318人（対前年1182人の増加）となりました。（図1、表1、統計表第1表）

図1 人口増加数の推移（平成11年～20年）

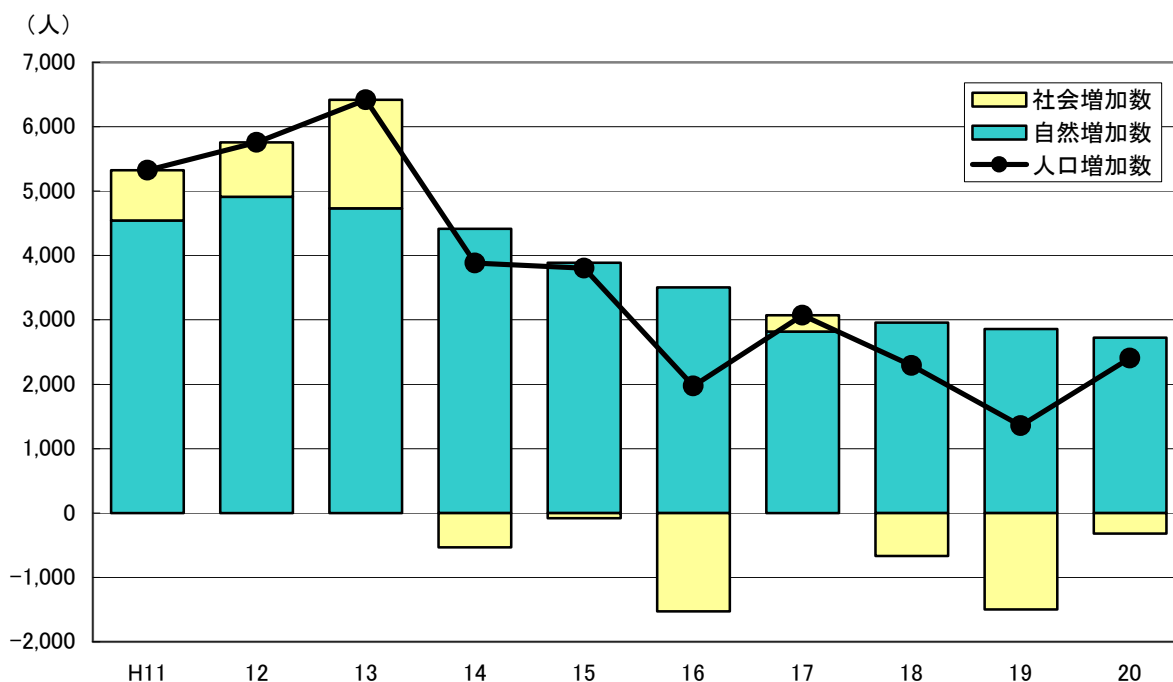


表1 登録人口の推移—全市、区（平成15年～20年）

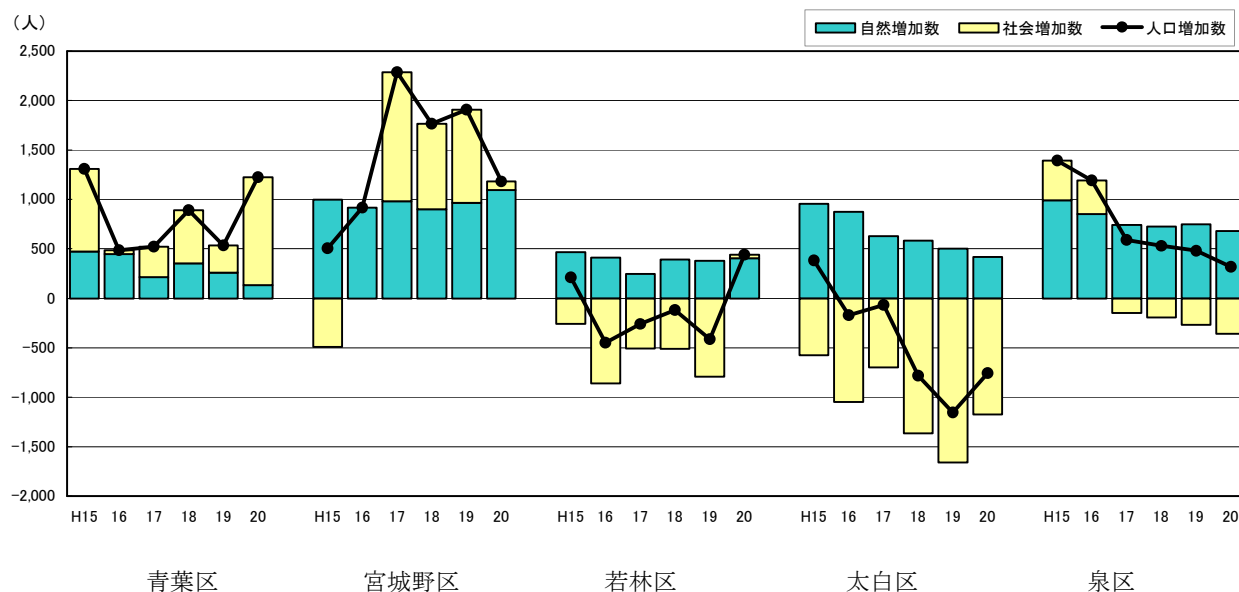
各年末(単位:人)

年次	仙台市	青葉区	うち 宮城総合 支所	宮城野区	若林区	太白区	うち 秋保総合 支所	泉区
平成15年	1,009,274	272,944	62,424	176,803	128,706	222,804	4,813	208,017
16	1,011,249	273,430	63,176	177,721	128,257	222,632	4,772	209,209
17	1,014,322	273,952	64,392	180,007	127,998	222,564	4,726	209,801
18	1,016,611	274,843	65,498	181,774	127,879	221,783	4,661	210,332
19	1,017,967	275,377	66,499	183,682	127,466	220,628	4,674	210,814
20	1,020,376	276,603	67,572	184,863	127,906	219,871	4,609	211,133

区別の動向をみると、太白区を除く全区において、人口が増加しました。また、太白区では引き続き減少傾向にあるものの、若林区では人口が増加に転じています。

増加数が最も多かったのは青葉区の1226人（自然増加数132人、社会増加数1094人）で、以下、宮城野区の1181人（自然増加数1095人、社会増加数86人）、若林区の440人（自然増加数405人、社会増加数35人）、泉区の319人（自然増加数678人、社会増加数△359人）、太白区の△757人（自然増加数417人、社会増加数△1174人）でした。（図2、表1、統計表第1表）

図2 人口増加数の推移—区（平成15～20年）



2 自然動態

過去10年間の自然増加数の推移をみると、出生数は平成14年以降9千人台が続いているものの、最近3年間は増加の傾向となっています。死亡数は5千人台から6千人台後半へと増加の傾向となっています。平成20年の出生数は前年より44人増加して9616人、死亡数は前年より173人増加して6889人となったことから、自然増加数は2727人となり、平成19年の2856人に比べ129人減少しました。（図3、統計表第1表）

区別の動向をみると、出生数は青葉区・宮城野区で前年より増加しました。死亡数は、青葉区・太白区・泉区で前年より増加しました。

自然増加数が最も多かったのは宮城野区の1095人（出生数2249人、死亡数1154人）で、以下、泉区の678人（出生数1816人、死亡数1138人）、太白区の417人（出生数2029人、死亡数1612人）、若林区の405人（出生数1260人、死亡数855人）、青葉区の132人（出生数2262人、死亡数2130人）でした。（図4、統計表第1表）

図3 自然動態の推移—全市（平成11年～20年）

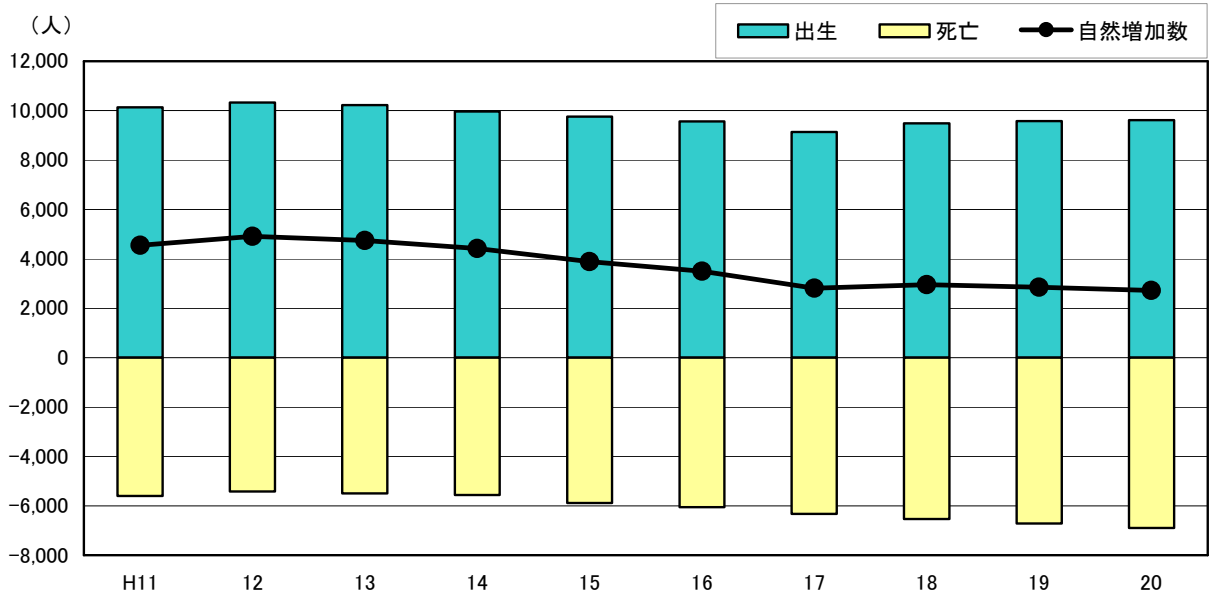
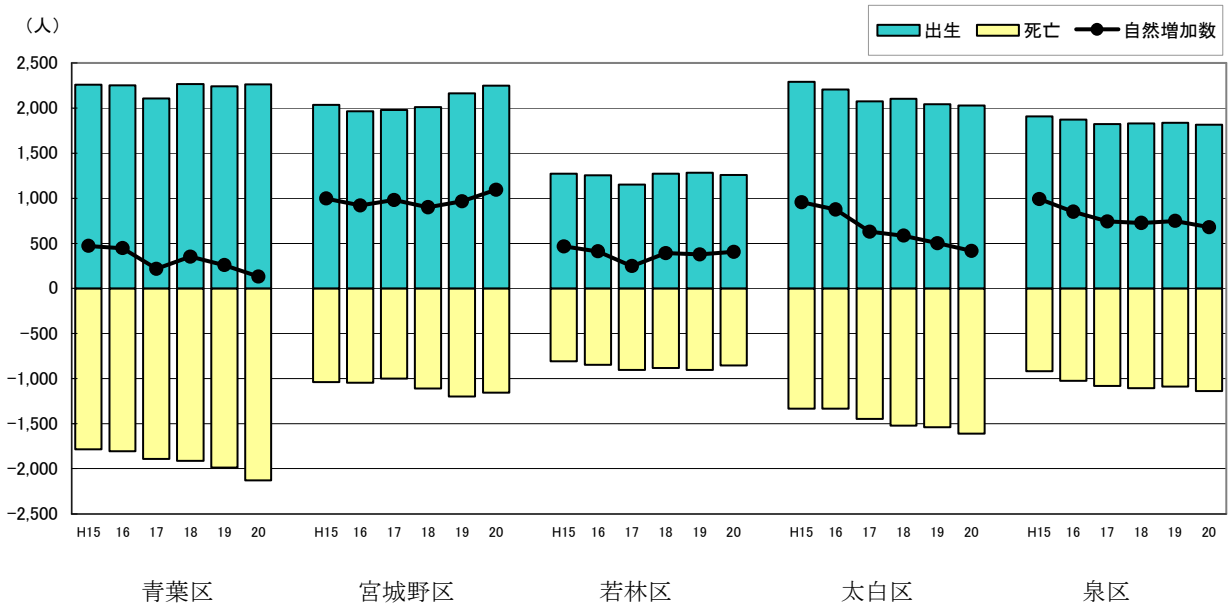


図4 自然動態の推移—区（平成15年～20年）



3 社会動態

過去10年間の社会増加数の推移をみると、特に県外・国外移動において流出超過の状況が続いています。

平成20年の転入数は7万1959人で前年より1369人の減少、転出数は7万2391人と前年より2417人の減少、この結果、転入転出数にその他増加数114人を加えた社会増加数は△318人となりました。過去10年間で、2番目の社会減（転出超過）となった前年と比較すると、超過幅は縮小しています。

区別の動向をみると、県内移動では太白区と泉区で転出超過、他の3区では転入超過となりました。県外・国外との移動については、青葉区と宮城野区で転入超過、他の3区では転出超過となりました。

社会増加数が最も多かったのは青葉区の1094人（転入数2万2710人、転出数2万1502人、その他増加数△114人）で、以下、宮城野区の86人（転入数1万4697人、転出数1万4683人、その他増加数72人）、若林区の35人（転入数9068人、転出数9066人、その他増加数33人）、泉区の△359人（転入数1万2686人、転出数1万3086人、その他増加数41人）、太白区の△1174人（転入数1万2798人、転出数1万4054人、その他増加数82人）でした。（図5、統計表第1表）

図5 社会増加数の推移—全市、区（平成15年～20年）

